

トルコ 果実の収穫量は厳しい春霜のため24%減少

[FreshPlaza](#) 2025年6月23日

トルコは、4月の季節外れの霜と寒さにより、多くの主要産地で果実の収穫量が壊滅的な打撃を受け、この数十年で最も深刻な部類の農業災害への対応に追われている。過去30年間で最も被害が大きいと言われるこの降霜では、全国で10℃もの急激な気温低下が起り、開花中の果樹に深刻な影響を与えた。議会は、被害を評価して緊急措置を勧告するための委員会を設置した。

サクランボ部門は特に大きな打撃を受けた。イズミル、マニサ、デニズリ、キュタヒヤ等の主要な生産県では広範囲にわたる被害が発生し、一部の地域では収量が80%も減少したと推定される。いくつかの地域で収穫が完了しつつあるが、市場への供給量は依然として少なく、価格は高い。現在、品質の低いものが150～300トルコリラ(4.3～8.7ユーロ)/kgで販売されている一方、ナポレオン、サリフリ等の品質の高い品種は、もし出回ってさえいれば、600～700リラ(17.3～20.2ユーロ)/kgで取引されている。

収穫が遅い産地であるコンヤ県のハドゥム郡は、まだ収穫の準備をしている数少ない地域の1つである。しかし、そこでもサクランボの生産量は75%以上減少した。出荷開始時の価格は約400リラ(11.5ユーロ)/kgであるが、生産者は(収穫量の減少のために)財政的な困難に直面している。このセクターの代表であるデフィク・アテシュ氏は、多くの人が品不足を利用して価格を吊り上げているが、現在「良い品質」だとされている果実であっても通常の基準を下回っていると警告した。他の地域では、デニズリ県ホナズ郡の特産品種はうまく生育せず、アマスヤ県では長年開催されてきたサクランボ祭りが不作のためにキャンセルされた。

霜の影響はサクランボだけにとどまらない。農業当局によると、全国の果実生産量は当初予想された2,800万トンからわずか2,100万トンに減少した。アンズは特に影響を受けた。マラティヤ県商品取引所のラマザン・オズジャン会長は、近年は年間収穫量が17万トンから7万トンに減少し、トルコの生鮮アンズ生産量の世界シェアが大幅に減少したと指摘した。被害を受けた果樹園の維持費は2倍になった。

マニサ県のブドウ生産者も大きな被害を受け、2回の降霜の後、予想収量が半分に以下に減少した。商品取引所のサドック・オズカサップ会長は、30万トンからわずか12万5千～15万トンにまで減少したと報告した。

農業界のリーダー達は、緊急の支援を求めている。農業技術者会議所のバキ・レムズィ・スイチメズ氏は、剪定、灌漑、施肥、病虫害防除を含む復旧計画の重要性を強調し、融資の返済期限の延期と新たな支援パッケージの必要性を訴えた。財政的な救済がなければ、トルコの農業経済はダメージが長引く可能性がある。

トルコ統計局の公式な予測では、2025年の果実生産量は24.4%減少すると予想されており、中央銀行は霜害を主な要因として食料のインフレ率の予測を26.5%に引き上げた。

出典: Daily News, TMMOB